



平成24年11月1日発行

こはあも奥さん



大丸エポウエン 株式会社

「こんにちわ奥さん」係

〒559-0022
大阪市住之江区緑木1-4-39

TEL.06(6685)5101

TEL.0120-093-025

http://living-poppo-garden.jp/



写真は大阪の繁華街・梅田近辺で撮影したものです。

プラタナスは広く街路樹に用いられています。スズカケノキ科スズカケノキ属の落葉広葉樹で、その総称がプラタナス。古くは「鈴懸の径」など、歌謡曲の歌詞によく登場する樹木です。花期は春、晩秋につける果実が鈴の形に似ているため、スズカケノキという和名になりました。カエデに似た大きな葉が特徴で、プラタナスの語源もギリシヤ語の「広い」に由来します。

日本でも街中でよく見かけ、プラタナスと呼ばれているものの、日本のプラタナスは、本種よりもモミジバズカケノキであることが多いようです。スズカケノキとアメリカスズカケノキとの交配種です。樹皮に特徴があり、淡い灰褐色あるいは灰緑色。不規則に剥がれ、その跡が淡い緑灰色の鹿の子模様になります。

「はじめに」
「こんにちわ奥さん」係から

海や河川、時には雨粒や雪、冬には池の表面で氷となり、家水道の栓をひねればほとぼしり出る。水は、私たちにとってありふれた存在です。動物も植物も水なしでは生きられず、ありふれていなければ困ります。この、ありふれた存在である水は、実は他の物質にはない特異な性質を持っているのです。あまり身近なため気付きませんが、水は実に不思議な物質なのです。まず、0℃から100℃という幅広い温度帯で液体でいることができる。他にこんな物質はありません。次に、固体のほうが液体より軽いという性質。物質は温度(および圧力)により、気体・液体・固体と姿を変化させます。これを「物質の三態」といいますが、普通は気体より液体、液体より固体のほうが重くなります。温度が下がればギュッと縮まり重くなると考えるとイメージしやすいでしょう。ところが水は、固体になると膨張し軽くなります。氷山は海に

浮き、コップの水も水に浮きます。理由を説明すると複雑なので、ここでは水の分子の結合が特異だから、とだけ言っておきます。水も、温度が下がると重くなるのは他の物質と同じ。それでは、水がいちばん重くなる温度はというと、これが4℃。秋が深まり、池の表面の水が冷えると重くなって沈み、下の水と入れ替わります。これを冬にかけて繰り返し、4℃の水が底に溜まります。この水は重いため動かず、最終的には池の水すべてが4℃になります。外気が0℃以下になると表面の水が凍りはじめますが、表面の氷が厚くなることはあっても外気を遮断するため、池の底まで凍ることはありません。池の底は厳寒期でも4℃。だから池の生物が凍え死ぬことはありません。

水の不思議
4℃の重さ



浮き、コップの水も水に浮きます。理由を説明すると複雑なので、ここでは水の分子の結合が特異だから、とだけ言っておきます。水も、温度が下がると重くなるのは他の物質と同じ。それでは、水がいちばん重くなる温度はというと、これが4℃。秋が深まり、池の表面の水が冷えると重くなって沈み、下の水と入れ替わります。これを冬にかけて繰り返し、4℃の水が底に溜まります。この水は重いため動かず、最終的には池の水すべてが4℃になります。外気が0℃以下になると表面の水が凍りはじめますが、表面の氷が厚くなることはあっても外気を遮断するため、池の底まで凍ることはありません。池の底は厳寒期でも4℃。だから池の生物が凍え死ぬことはありません。

水も、温度が下がると重くなるのは他の物質と同じ。それでは、水がいちばん重くなる温度はというと、これが4℃。秋が深まり、池の表面の水が冷えると重くなって沈み、下の水と入れ替わります。これを冬にかけて繰り返し、4℃の水が底に溜まります。この水は重いため動かず、最終的には池の水すべてが4℃になります。外気が0℃以下になると表面の水が凍りはじめますが、表面の氷が厚くなることはあっても外気を遮断するため、池の底まで凍ることはありません。池の底は厳寒期でも4℃。だから池の生物が凍え死ぬことはありません。

水も、温度が下がると重くなるのは他の物質と同じ。それでは、水がいちばん重くなる温度はというと、これが4℃。秋が深まり、池の表面の水が冷えると重くなって沈み、下の水と入れ替わります。これを冬にかけて繰り返し、4℃の水が底に溜まります。この水は重いため動かず、最終的には池の水すべてが4℃になります。外気が0℃以下になると表面の水が凍りはじめますが、表面の氷が厚くなることはあっても外気を遮断するため、池の底まで凍ることはありません。池の底は厳寒期でも4℃。だから池の生物が凍え死ぬことはありません。

水も、温度が下がると重くなるのは他の物質と同じ。それでは、水がいちばん重くなる温度はというと、これが4℃。秋が深まり、池の表面の水が冷えると重くなって沈み、下の水と入れ替わります。これを冬にかけて繰り返し、4℃の水が底に溜まります。この水は重いため動かず、最終的には池の水すべてが4℃になります。外気が0℃以下になると表面の水が凍りはじめますが、表面の氷が厚くなることはあっても外気を遮断するため、池の底まで凍ることはありません。池の底は厳寒期でも4℃。だから池の生物が凍え死ぬことはありません。

ガス湯沸器やガス暖房機をご使用の皆様へ

ご使用中は必ず換気をしてください

ガスが燃えるには、新鮮な空気が必要です。換気が不十分な状態でガス機器を使用すると、不完全燃焼によるCO(一酸化炭素)中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。ガス小型湯沸器やガス暖房機などのガス機器を室内でご使用の際は、必ず換気をしてください。

ガス小型湯沸器

ご使用の際は、換気扇を回すか、窓を開けてください。



ガス暖房機

ガスファンヒーター・ガスストーブをご使用になるときは、1時間に1~2回(1~2分)は窓を開けましょう。



換気は2ヶ所以上の窓を開けて、風の通り道を設けると効率よくできます。

異常を感じたら使用を中止してご連絡ください

ガス機器の使用中に火が消えたり、イヤなおいがしたり、炎の黄色、ススの付着、その他異常が見られた場合は、点検が必要です。詳しくはガス機器販売店又はメーカー相談窓口までご相談ください。

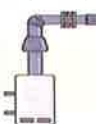


ガス機器も長期間使用していると、熱・漏気・ほこりなどの影響や部品の経年劣化により安全性を損ない、不完全燃焼が発生するとCO(一酸化炭素)中毒を起し死亡事故につながるおそれがあります。

こんな時には、決して換気扇を回さないでください!

浴室内設置 C F式ガスふろがま

CF式(排気筒[煙突式]ガスふろがまを使用しているときは、ガス小型湯沸器や換気扇を使用しないでください。



浴室内に排気が逆流し、CO(一酸化炭素)中毒になるおそれがあります。